

北前船のロマン

西神ニュータウン研究会 第249回例会

◆講師◆ 中山 尚憲 氏（「北前船ロマン研究会」代表）

江戸時代半ばから明治 30 年代にかけて、大坂から瀬戸内海と日本海の湊（港）を寄港しながら、蝦夷（北海道）を結んだのが「北前船」です。

「北前船ロマン」とは、北前船に関わってきた様々な人々や寄港地、そして、運ばれた物資、情報によって産み出されたロマン（物語）です。

今回は北前船の母港のひとつであった兵庫津を中心とした物語（ロマン）について、北前船ロマン研究会代表の中山尚憲氏に講演していただきます。（※9月頃続編を予定）

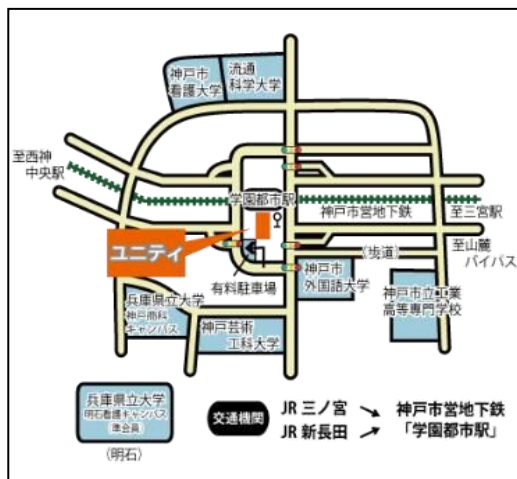
○日 時 2025年6月19日(木) 18:00 ~ 19:50

○場 所 神戸市外国語大学サテライト セミナー室 B (旧ユニテイ)
ユニバープラザ2階 (地下鉄「学園都市」駅前)

○会 費 年会費 2,000 円
当日のみ参加 300 円
(年会費を支払われる方は不要です)

事前申込や予約は必要ありません。

外大サテライト事務局に、例会に関する問合せは
しないようにお願いします。



西神中央、西神南、学園都市からなる西神ニュータウンを中心に、ニュータウンの過去、現在、将来について住民主体で意見交換する西神ニュータウン研究会では、例会を毎月開催しています。

例会参加者には、「西神ニュータウン路上探検！おもしろマップ（１、２）」をさしあげます。

北前船ロマン研究



江戸時代半ばから明治30年代にかけて、大坂から瀬戸内海と日本海の湊(港)を寄港しながら、蝦夷(北海道)を結んだのが「北前船」。

春から夏に、日本海を対馬海流と南からの風で北に、秋にはシベリア高気圧からの北風を利用して南に。

自然の力を利用するための堅牢な船体、波を切り裂く鋭い船首、特徴的な巨大な一枚帆と巨大な舵。主に米2500俵が積める千石船。

帆走できるため、千石以上の船でも10数人で運航することができた。

情報のない時代に寄港地で売りたい商品を安価で買い、欲しい商品を高価で売る独特の商法で「1航海千両(現在の1億円)」の利益を上げる、いわば「動く総合商社」的な存在でした。

「北前船ロマン」とは、「北前船」に関わってきた様々な人々や寄港地、そして、運ばれた物資、情報によって産み出されたロマン(物語)です。

現在の時間と情報が瞬時に流れる時代にこそ、「北前船」に乗って、時間がゆっくりと流れ、人情があふれた時代の物語(ロマン)を探す(研究)旅に出ませんか。

2023年4月より、北前船ロマン研究会のホームページで、ロマン(物語)を連載中です。

プロローグ 「北前船ロマン研究」の旅に出よう

第1部 北前船の誕生のロマン(歴史編)

<連載完>

ー日本の船運に適した地形や気候、北前船誕生までのその歴史的経緯ー

- ・序章 船運に適した日本の地形と大自然環境のロマン
- ・第1章 「遷都」は水運が決め手となったが、京の「都」は1100年間続いた
- ・第2章 北前船の商いの基礎をつくった近江商人
- ・第3章 北前船の誕生の伏線となった西廻り航路の整備
- ・第4章 北前船の誕生
- ・第5章 北前船の誕生と発展を支えた若狭・越前・加賀国の船主たち

第2部 北前船の活躍のロマン(エピソード編)

<連載完>

ー北前船が活躍したことで生まれた歴史とその影のロマンー

- ・第6章 北前船による「昆布ロード」ー富山と薩摩を結んだロマン
- ・第7章 水運・海運によって産み育てられた日本一の酒蔵・灘五郷
- ・第8章 瀬戸内海の潮流の厳しさを味方にした塩飽の人の航海術と造船業
- ・第9章 兵庫津を北前船の最終寄港の母港とした天然の良港性と北風家の奮闘
- ・第10章 北前船の母港にも「港都」にもなれなかった「水都」大坂

第3部 北前船と寄港地域のロマン(スポット編)

<連載中>

ー北前船が寄港した地域の自然や歴史から生まれた物資や文化に関わるロマンー

- ・第11章 なぜ大聖寺藩から多くの北前船船主が誕生し活躍したのか
- ・第12章 瀬戸内海の特異構造から誕生した特産物と活躍した英雄^{ヒーロー}
- ・第13章 松前藩の誕生と特異な経済基盤、そして背後に迫るロシアの脅威
- ・第14章 (仮題) 国境の島・択捉島死守のため奮闘した兵庫津の北前船の船主たち

会のホームページは「北前船ロマン研究会」で検索または上段のQRコードで閲覧できます。

研究会の会費・入会金等はありません。

お問い合わせは、右記をお願いします。

代表者 : 中山尚憲 (なかやまひさのり)

連絡先 : nakayama75154@zeus.eonet.ne.jp